

soideae, simplices, $15 \times 9 \mu$ magnae, membrana tenui.

Reaction: Th. K+flavens; med. K+sanguineorubens, PD+lutescens.

Mat. chim. propr.: atranorinum et acidum salacinicum.

Loci natales: Hondo. Mt. Ontake, Prov. Shinano. Shikoku, Mt. Ishiduti, Prov. Iyo. Kiusiu, Mt. Itibusa, Prov. Higo. Ad cortices arborum. Typus in Herbario meo.

Formerly this species was confounded with *Parmelia laevior*, to which it resembles in the thalline habit as well as in the chemical ingredients. But it may be distinguished by the smaller apothesia and by the absence of white pseudo-cyphellae along the thalline and apothecial margin.

多年前から *Parmelia laevior* によく似て而も之と異なる標本を手にして居たが標本不完全の為に確定不可能であつた。今夏 (1954) 木曾御嶽山飛驒口側の森林で完全なものに遭遇し新種として茲に記載した。これと同定さるる古い標本は二箇あり一つは四国石槌山産、一つは九州肥後の市房山産で何れも 1933 年の藤川福二郎君の採品である。恐らく本州中部にも分布して居るものと考えられる。*Parmelia laevior* は形態に変異多く、或る形は本種との区別が六つかしい。又反応、成分も同一である。然し葉縁並に果托に小白点 (擬盃点) を散布する。本種には全く此の白点を欠くので区別される。

○カワノリの新産地 (矢頭猷一*) Ken-ichi YATOH*: A new locality of *Prasiola japonica* Yatabe.

カワノリ (*Prasiola japonica*) の産地については最近小清水卓二氏の報告 (本誌, 27: 72, 1952), 千原光雄氏の報告 (本誌, 29: 40, 1954) 等があり紀伊半島、伊豆半島にも産することが知られた。また船津金松氏 (探と飼, 16: 253, 1954) は越後に産するかも知れないと報じておられる。

ところで岐阜県揖斐郡久瀬村の清水一夫氏が 1954 年 9 月 15 日、同村小津川 (揖斐川の支流) で採集された乾燥標本を最近筆者に宛てて送つてこられた。植物体は 7~8 cm に生長したもので通信に依れば産地は小津川に三カ所、水温は夏期で 12°C 、海拔高約 250 m、岩石は花崗岩で石灰岩地帯には全然見られないよし、本年は発生が良好で附近の農民はかなり採集して食用にしているとの事で、その製品見本も同時に恵まれた。かねてから伊豆半島と紀伊半島の間にも発見される可能性はあると想像していたので、ここに新産地を報告した次第である。尚、筆者が東京大学、農学部で勤務していた頃、秩父演習林 (埼玉県秩父郡大滝村) の入川の支流ヒダナ川で矢張りカワノリを採つたことがあつた。これは 1947 年 7 月のことであつた。 (三重大学農学部)

* 三重県津市上浜町 三重大学農学部附属演習林 Fac. of Agr., Mie Univ., Tsu-City.